# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 子どもの食と栄養Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子どもの食と栄養Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 子どもの食と栄養改訂第3版 | | 出版社 | 中山書店 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基礎となる為食を通じた子どもの健全な保育に携わる知識を身につける。 |
| 到達目標 | １．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。<br>２．関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | 子どもの食と栄養Ⅰ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 薗美沙子 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 給食室調理補助としての勤務経験から保育者として食を通じた子どもの健全育成に携わる知識を教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 子どもの食と栄養Ⅰの復習・振り返り |
| 2 | 第４章：食育の基本と実践① | 食育基本法の概要 |
| 3 | 第４章：食育の基本と実践② | 食育基本法の目的・推進 |
| 4 | 第４章：食育の基本と実践③ | 食育推進基本計画 |
| 5 | 第４章：食育の基本と実践④ | 食育推進基本計画の実施 |
| 6 | 第４章：食育の基本と実践⑤ | 保育所における食育の推進 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 第４章：食育の基本と実践⑥ | 保育所における食育の推進の計画・実施・評価 |
| 8 | 第４章：食育の基本と実践⑦ | 食育活動の実践 |
| 9 | 第４章：食育の基本と実践⑧ | 保護者への情報提供 |
| 10 | 第４章：食育の基本と実践⑨ | 学校給食の現状 |
| 11 | 第４章：食育の基本と実践⑩ | 栄養教諭・バランスガイド |
| 12 | 第４章：食育の基本と実践⑪ | 理解度確認 |
| 13 | 第４章：食育の基本と実践⑫ | 食育媒体に触れる |
| 14 | 第５章：児童福祉施設や家庭① | 児童福祉施設における食に関する指針 |
| 15 | 第５章：児童福祉施設や家庭② | 児童福祉施設の食事 |
| 16 | 第５章：児童福祉施設や家庭③ | 保育所における保護者支援と地域との連携 |
| 17 | 第６章：感染症と食中毒① | 感染症と食中毒の違い |
| 18 | 第６章：感染症と食中毒② | 食中毒の発生状況と予防策 |
| 19 | 第６章：感染症と食中毒③ | 施設における衛生管理 |
| 20 | 第６章：感染症と食中毒④ | 理解度確認 |
| 21 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養① | 食物アレルギー |
| 22 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養② | アレルギー疾患への対応 |
| 23 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養③ | 鉄欠乏性貧血・糖尿病・発熱・体調不良 |
| 24 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養④ | 急性胃腸炎・便秘 |
| 25 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養⑤ | 肥満・やせ・障がい児 |
| 26 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養⑥ | 理解度確認 |
| 27 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養⑦ | ７章のまとめ①特別な配慮を要する子どもへの具体的対応を学ぶ。 |
| 28 | 第７章；特別な配慮を要する<br>子どもの食と栄養⑧ | ７章のまとめ②病気時の食事の実際・誤嚥しやすい食材について触れる。 |
| 29 | まとめ① | 保護者対応 |
| 30 | まとめ② | 総復習 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 表現 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 表現 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 表現指導法ー感性を育て表現の世界を拓く | | 出版社 | 上野奈初美編著萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | 保育者として子どもの表現力をどのように育て、援助していけばよいかについて学ぶ。子どもと豊かに関わり、育ちを支えるために必要な保育者自身の感性とそれを支える表現技術の獲得を目指す。さらに、保育の場における「表現」に関する課題、他の領域との関連性についても理解を深める。 | | |
| 到達目標 | １．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。<br>２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。<br>３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。<br>４．保育の多様な展開について具体的に理解する。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 | | |
| 関連科目 | 健康・人間関係・環境・言葉 | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | 髙橋妙子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育士として、公立保育園での保育業務や児童センターでの児童育成事業に携わる。公立保育園園長も務めた経験から、子どもへの援助の在り方を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・到達目標・成績評価の基準について |
| 2 | 子どもにとっての表現とは | 第1講/子どもの「表現」に関する基礎的事項について理解する |
| 3 | 領域「表現」とは | 第2講/領域「表現」の基本について理解する |
| 4 | リズムを楽しむ子どもの身体表現 | 第3講/子どもの身体表現とリズムとの密接な関わり合いを学ぶ |
| 5 | スポーツの名場面を表現に | 第4講/スポーツの特性を知り身体表現との相違点や類似点を学ぶ |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 音楽表現活動の指導① | 第5講/音楽表現活動の基盤である聴くことについて理解する<br>声を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学び、保育者自身の表現力を培う |
| 7 | 音楽表現活動の指導② | 第6講/楽器や音の出る素材を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ<br>保育者自身の表現力を培う |
| 8 | 幼児の造形表現の特質 | 第7講/幼児の造形表現の特徴を学ぶ |
| 9 | 造形の材料と技法 | 第8講/造形表現の材料や技法について学ぶ |
| 10 | 言葉による表現① | 第9講/子どもにとっての言語表現とは何かについて学ぶ |
| 11 | 言葉による表現② | 第10講/言葉を媒介とした表現遊びについて理解する |
| 12 | 中間振り返り | 各回の内容振り返り、理解度確認 |
| 13 | 自然と生活 | 第11講/年度当初の保育活動の特色について理解する |
| 14 | 夏のイメージから表現へ | 第12講/夏のイメージから多様な表現が生まれることを学ぶ |
| 15 | 総合的音楽表現活動の指導 | 第13講/行事を通して子どもの自主性や表現力、協働する力を育むための保育者の関わり方や計画の実践方法を学ぶ |
| 16 | 総合活動計画の立案 | 第14講/部分実習指導案を作成できるようにする |
| 17 | 領域「表現」とはの目指すもの | 第15講/現代社会の中で子どもの豊かな表現を育むための課題について考える |
| 18 | 振り返り | 総復習 |
| 19 | 領域「表現」に関する実践① | 計画→（製作）→実践 |
| 20 | 領域「表現」に関する実践② | 計画→（製作）→実践 |
| 21 | 領域「表現」に関する実践③ | 計画→（製作）→実践 |
| 22 | 領域「表現」に関する実践④ | 計画→（製作）→実践 |
| 23 | 領域「表現」に関する実践⑤ | 計画→（製作）→実践 |
| 24 | 領域「表現」に関する実践⑥ | 計画→（製作）→実践 |
| 25 | 領域「表現」に関する実践⑦ | 計画→（製作）→実践 |
| 26 | 領域「表現」に関する実践⑧ | 計画→（製作）→実践 |
| 27 | 領域「表現」に関する実践⑨ | 計画→（製作）→実践 |
| 28 | 領域「表現」に関する実践⑩ | 計画→（製作）→実践 |
| 29 | 領域「表現」に関する実践⑪ | 計画→（製作）→実践 |
| 30 | 「表現」総まとめ | 保育における「表現」 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 保育実習指導Ⅰ(施設) | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 保育実習指導Ⅰ(施設) | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 事例を通して学びを深める施設実習ガイド | | 出版社 | ミネルヴァ書房 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 保育実習の理解を高め、保育士としての基本的な態度、知識、技術の基礎を形成するとともに、保育実習に向けた課題の明確化を図る |
| 到達目標 | ①保育実習の意義・目的を理解する。<br>②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。<br>③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。<br>④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。<br>⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。<br>保育実習Ⅰ（施設）の単位が取得できている者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 長山千愛/吉村英恵 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 長山/幼保連携型認定こども園の幼稚園にて、幼稚園教諭として6年間勤務<br>吉村/私立幼稚園にて、幼稚園教諭として８年間勤務<br>以上の経験から、保育実習の理解を深められるよう教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 実習の概要 | 保育実習に向けての準備する内容を理解する |
| 2 | 保育実習の目的理解 | 施設実習の「目的」「意義」「内容」を理解する |
| 3 | 倫理綱領① | 保育士倫理綱領を理解する |
| 4 | 倫理綱領② | 保育士倫理綱領を理解する |
| 5 | 実習先の種類と概要① | 実習先の施設種類における概要を理解する |
| 6 | 実習先の種類と概要② | 実習先の施設種類における概要を理解する |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 実習先の種類と概要③ | 実習先の施設種類における概要を理解する |
| 8 | 実習施設調査 | 自分の実習先について調べ、施設種別と実習先の特徴について整理する |
| 9 | 保育実習内容の明確化 | 実習施設調査を踏まえて実習先の施設種別と保育実習における内容の位置付けを図る |
| 10 | 保育実習課題の明確化 | 実習施設調査を踏まえて保育実習を通しての課題及び各実習日の実習課題について検討する |
| 11 | 実習生としての心構え① | 心構え、実習時の服装、基本的な礼儀、マナー、電話のかけ方について考える |
| 12 | 実習生としての心構え② | 通所施設における礼儀やマナー、宿泊に伴う礼儀やマナーについて考える |
| 13 | プライバシーの保護と守秘義務 | 実習先における入所、通所児者のプライバシー保護及び守秘義務について理解する |
| 14 | トラブルシューティング | 保育実習におけるトラブル事例について考察し、対応策について検討する |
| 15 | 子どもの保育と保護者支援 | 子どもの保育における保護者支援を検討する |
| 16 | 実習における計画 | 実習期間における実習計画書を作成する |
| 17 | 保育実習における観察 | 保育実習における観察実習について理解する |
| 18 | 保育実習における記録の意義・方法 | 実習日誌の意義と方法を理解する |
| 19 | 保育実習における記録① | 実習日誌の書き方を理解し、実際に作成する |
| 20 | 保育実習における記録② | 実習日誌の記載方法について深める |
| 21 | 部分実習指導案① | 部分実習指導案の立て方を学ぶ<br>自分の実習先を想定し、指導案を書く |
| 22 | 部分実習指導案② | 部分実習指導案の立て方を学ぶ<br>自分の実習先を想定し、指導案を書く |
| 23 | お礼状の書き方 | お礼状の下書きを作成する |
| 24 | 実習の振り返り | 実習における振り返りを行い自己覚知を図る |
| 25 | 実習報告書の作成① | 実習計画書に基づき、実習報告書を作成する |
| 26 | 実習報告書の作成② | 実習計画書に基づき、実習報告書を作成する |
| 27 | 発表① | 保育実習を通しての学びを他者と共有する |
| 28 | 発表② | 保育実習を通しての学びを他者と共有する |
| 29 | 実習の総括と自己評価 | 保育実習を通しての総括と自己評価を行う |
| 30 | 課題の明確化 | 実習を通して学んだことを振り返る |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 未来デザインプログラムⅡ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 未来デザインプログラムⅡ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 15 |
| 使用教材 | ①未来デザインプログラムⅡワークブック<br>②公認モチベーション・マネジャー資格エントリーコース（ハンドブック） | | 出版社 | 一般社団法人<br>モチベーション・マネジメント協会 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | 学校や社会でおこる「不都合な現実」の乗り越え方を学ぶ。 | | |
| 到達目標 | 「公認モチベーション・マネジャー資格エントリーコース」が取得できる。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 公認モチベーション・マネジャー資格エントリーコース | | |
| 関連科目 | 未来デザインプログラムⅠ | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | 谷口美咲/他1名 | 実務経験 | |
| 実務内容 | | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | モチベーションを学ぶとは？ | 未来デザインプログラムⅡの趣旨理解(モチベーションションタイプ) |
| 2 | 実習に行ってみよう | 「実習に行きたくない」時の乗り越え方(選択理論) |
| 3 | 何度でもチャレンジしてみよう | 「実習で何度もやり直しをしなくてはならない」時の乗り越え方(自己効力感①) |
| 4 | 保育観のズレを乗り越えよう | 「保育観の違い」を感じた時の乗り越え方(フィット理論) |
| 5 | 結果を受け止めよう | 「実習で厳しい評価を受けた」時の乗り越え方(チャンスフォーカス) |
| 6 | 働くということとは？ | 「働く意味がみえなくなった」時の乗り越え方(欲求階層説) |
| 7 | 理論を知る意味（復習） | モチベーション理論、未来デザインプログラムⅡの前半で学んだことの振り返り |
| 8 | 不安を克服するには？ | 「就職活動に不安で踏み出せない」時の乗り越え方(自己効力感②) |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 周囲との距離を縮めよう | 「周囲となじめない」時の乗り越え方(ジョハリの窓①) |
| 10 | 先輩と良い関係を築くためには？① | 「先輩とうまくいかない①」時の乗り越え方(ジョハリの窓②) |
| 11 | 苦手なことと向き合おう | 「苦手なことと向き合えない」時の乗り越え方(目標設定理論) |
| 12 | やる気を高めるポイントとは？ | 「イベントにやる気が出ない」時の乗り越え方(期待理論) |
| 13 | 未来デザインプログラムⅡの振り返り&テスト | モチベーション理論、未来デザインプログラムⅡで学んだことの復習（知識確認） |
| 14 | 先輩と良い関係を築くためには？② | 「先輩とうまくいかない②」時の乗り越え方(タイムスイッチ) |
| 15 | 総まとめ | 全体のまとめ＆ハンドブックについての説明 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 体育（講義） | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 体育（講義） | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 15 |
| 使用教材 | これからの健康とスポーツの科学 | | 出版社 | 講談社 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | ①こどもから大人までの健康や生活習慣について学び、理解する。<br>②健康と運動の関連性について学び、理解する。 | | |
| 到達目標 | ①自分自身の健康や生活の不安・問題点を見つめ直し、生活習慣を整えられるようになる。<br>②健康と運動、健康と身体の関連を理解し、健康管理、運動の必要性を説明できるようになる。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 | | |
| 関連科目 | なし | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | 大木寛人 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育園での体操指導、スポーツ幼児園での水泳指導等の経験をもとに、健康と運動、身体の関連性について教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ、到達目標について |
| 2 | ライフスタイルと健康 | 生活スタイルと健康との関連について |
| 3 | 生活習慣病について | 生活習慣病について |
| 4 | 肥満について | 肥満について |
| 5 | 振り返り① | 1回～4回までの学習内容を振り返り、レポートにまとめる/単元毎の振り返り |
| 6 | 骨と運動 | 骨の役割と運動について |
| 7 | 加齢について | 加齢と運動の重要性について |
| 8 | 子どもの体力と運動 | 子どもの体力・運動能力について |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 振り返り② | 6回～8回までの学習内容を振り返り、レポートにまとめる/単元毎の振り返り |
| 10 | 色々な環境下での安全な運動 | 色々な環境下で安全に運動を行う際の留意点について |
| 11 | ストレスと運動 | ストレスをはじめ、運動が心や脳に与える影響について |
| 12 | 振り返り③ | 10回～11回の学習内容を振り返り、レポートにまとめる/単元毎の振り返り |
| 13 | 子どもの遊びと生活 | 現在の子どもの遊びと生活について |
| 14 | まとめ① | 学習内容の理解度を確認する/全体振り返り |
| 15 | まとめ② | 学習内容の振り返りと総まとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 実技 | 科目名 | 体育（実技） | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 体育（実技） | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 幼児期に必要な運動遊びは何かを理解する。<br>保育現場(体育)で使える力を身につける。 |
| 到達目標 | 様々な用具・器具を用いて、幼児の見本となる運動遊びができる。<br>運動遊びの指導、補助ができる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 増井紬 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 幼児体育のインストラクター経験から幼児に対する適切な運動指導のスキルを教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方や内容の説明。アイスブレイキング |
| 2 | 用具を使用しない運動遊び | レクリエーション、模倣運動 |
| 3 | マット運動① | マット慣れと導入 |
| 4 | マット運動② | マット遊び |
| 5 | マット運動③ | マット運動の技、補助法 |
| 6 | マット運動の振り返り | マット運動の見本実技とまとめ |
| 7 | 跳び箱運動① | 跳び箱の特性と導入 |
| 8 | 跳び箱運動② | 跳び箱運動 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 跳び箱運動③ | 跳び箱運動の補助法 |
| 10 | 跳び箱運動の振り返り | 跳び箱運動の見本実技とまとめ |
| 11 | 鉄棒運動① | 鉄棒の特性と導入 |
| 12 | 鉄棒運動② | 鉄棒遊び |
| 13 | 鉄棒運動③ | 鉄棒運動の技、補助法 |
| 14 | 鉄棒運動の振り返り | 鉄棒運動の見本実技とまとめ |
| 15 | 前期のまとめ | 前期の振り返りとまとめ |
| 16 | 身体を使った運動遊び | 身体を使って遊ぶ |
| 17 | ボール遊び① | ボールの特性を理解し、ボール遊びを考え実践する |
| 18 | ボール遊び② | ボールの特性を理解し、ボール遊びを考え実践する |
| 19 | フープ・平均台遊び① | フープ・平均台の特性を理解し、運動遊びを考え実践する |
| 20 | フープ・平均台遊び② | フープ・平均台の特性を理解し、運動遊びを考え実践する |
| 21 | 縄遊び① | 長縄遊び |
| 22 | 縄遊び② | 短縄遊び |
| 23 | リズムダンス① | リズムダンスをグループで考える |
| 24 | リズムダンス② | リズムダンスを創作する |
| 25 | リズムダンス③ | リズムダンスを創作する |
| 26 | リズムダンス発表 | ダンス発表・他グループの評価/成果発表 |
| 27 | 運動遊びを考える① | 運動遊びの創作・発表 |
| 28 | 運動遊びを考える② | 運動遊びの創作・発表 |
| 29 | 運動遊びを考える③ | 運動遊びの創作・発表 |
| 30 | 総まとめ | 授業の振り返りとまとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子ども家庭福祉 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 『児童の福祉を支える子ども家庭福祉』＜第２版＞吉田眞理 | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史を知り、現代の制度や実施体系について理解する。<br>子ども家庭福祉の現状について理解を深めながら、子どもの人権擁護について考察する。 |
| 到達目標 | ①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。<br>②子どもの人権擁護について理解する。<br>③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。<br>④子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。<br>⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 八木俊介 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認可保育園での園長を8年間務めた経験から、子ども家庭福祉の現状と課題についての理解を深め、今後の展開等を考えられるような授業を展開する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 1年間の授業の流れをつかむ |
| 2 | 子ども家庭福祉の理念と概念① | 児童福祉法の理念と事例を通して概念を理解する |
| 3 | 子ども家庭福祉の理念と概念② | 子ども家庭福祉の課題・実践対象・方法について理解する |
| 4 | 子ども家庭福祉の歴史的変遷 | 海外と我が国の歴史的変遷を理解する我が国の先駆者について知る |
| 5 | 現代社会と子ども家庭福祉 | 我が国の世帯構造の変化などを統計上確認し、家族のありようが子どもの育ちに影響することを理解する |
| 6 | 子どもの人権擁護① | 子どもの人権擁護の歴史的変遷や児童憲章を理解する |
| 7 | 子どもの人権擁護② | 児童の権利に関する条約の内容について理解する |
| 8 | 子どもの人権擁護③ | 我が国の子どもの権利を守るしくみ、第三者評価事業・施設内での苦情解決のしくみなどを理解する |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 子ども家庭福祉の制度と法体系① | 保育所を支える法体系、保育所設備運営基準、児童福祉法の枠組みについて理解する |
| 10 | 子ども家庭福祉の制度と法体系② | 児童虐待防止法による虐待の定義、予防及び早期発見の役割、行政の責任と市民の義務について理解する |
| 11 | 子ども家庭福祉の制度と法体系③ | 次世代育成対策推進法、その他の関係法について理解する |
| 12 | 子ども家庭福祉行財政と実施機関 | 厚生労働省、地方自治体、児童相談所の機能、要保護児童対策地域協議会の役割について理解する |
| 13 | 児童福祉施設等① | 児童福祉施設：乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設の概要や入所理由、施設専門職等を理解する |
| 14 | 児童福祉施設等② | 児童福祉施設：障害児施設の枠組み、障害児入所施設、障害児通所施設（児童発達支援センター）の概要について理解する |
| 15 | 復習とまとめ | 前期のまとめと振り返りを行う |
| 16 | 児童福祉施設等③ | 地域に根ざした施設の役割として子育て短期支援事業を理解するまた児童福祉施設等の費用負担について理解する |
| 17 | 子ども家庭福祉の専門職・実施者 | 養護系施設、障害児施設、保育所で働く人たちを理解する |
| 18 | 住民による子ども家庭福祉活動 | 住民による子ども家庭福祉活動、家庭養育（里親・ファミリーホーム）、児童委員・主任児童委員について理解する |
| 19 | 子ども家庭福祉の現状と課題 | 少子化対策の流れを知る子ども子育て支援新制度の社会的背景・ポイント、地域子育て支援事業について理解する |
| 20 | 母子保健と児童の健全育成 | 保健所や保健センターの役割、地域子育て支援事業、地域での健全育成について理解する |
| 21 | 多様な保育ニーズへの対応 | 地域における保育制度、保育の必要性に応じたサービス提供、認可外保育施設と多様な保育サービスについて理解する |
| 22 | 児童虐待、ドメスティックバイオレンスの防止 | 児童虐待の実態と対応、保育所保育指針による保育士の役割を理解する |
| 23 | 社会的養護 | わが国における社会的養護、社会的養護のプロセス、新しい社会的養育ビジョンについて理解する |
| 24 | 障害のある子どもへの対応<br>少年非行などへの対応 | 児童福祉法の定義、障害者権利条約と障害児、障害者差別解消法による合理的配慮について、障害児のための制度、発達障害について理解する不登校・少年非行の対応について理解する |
| 25 | 貧困家庭・外国につながる子どもとその家族への支援 | 子どもの貧困対策法、子どもの貧困対策に関する大綱、生活困窮者自立支援制度、外国につながる家族への支援について理解する |
| 26 | ひとり親家庭、子どもと食育 | ひとり親家庭についての統計を確認し、支援のしくみを理解する食事の実態や食育基本法、保育所保育指針との関係を理解する |
| 27 | 子ども家庭福祉の動向と展望 | 次世代育成支援対策推進法による子ども家庭福祉の推進、子ども若者への支援、子育て家庭への支援の動向として幼児教育・保育の無償化などについて理解する |
| 28 | 保育・教育・療育・保健・医療との連携とネットワーク、諸外国の動向 | 教育との連携、療育との連携、子育て世代包括支援センターの機能を理解する諸外国の動向を知る |
| 29 | 後期まとめ | 後期のまとめを行う |
| 30 | 総まとめ | 後期のまとめと振り返りを行う |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 子ども家庭支援論 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子ども家庭支援論 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 『児童の福祉を支える子ども家庭支援論」（第2版） | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を生かした支援の基本を理解する。子育て家庭に対する支援体制を知る。加えて、支援サービスや地域資源を活用した保育士の活動について学び、子育て家庭のニーズに応じた支援の展開と課題について考察する。 |
| 到達目標 | ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。<br>②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。<br>③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。<br>④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 竹内直美 |
| 実務経験 | |
| 実務内容 | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 保育士が家庭支援を学ぶ意義について説明をする。今後の授業の進め方について説明する |
| 2 | 子ども家庭支援の意義と必要性① | 家庭とは |
| 3 | 子ども家庭支援の意義と必要性② | 現代のライフコースと家庭離婚や再婚と親子関係 |
| 4 | 子ども家庭支援の目的と機能① | 養育・保護を目的とした子ども家庭支援機能 |
| 5 | 子ども家庭支援の目的と機能② | 休息・生活文化伝承・生命倫理感の醸成を視点とした子ども家庭支援機能 |
| 6 | 子どもの発達と家族① | 子どもの発達 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 子どもの発達と家族② | 子育てを通じた親の発達 |
| 8 | 子どもの発達と家族③ | 親の発達の実際 |
| 9 | 子どもの発達と家族④ | 親としての役割、子どもとしての役割 |
| 10 | 保育士による子ども家庭支援の意義と基本① | 福祉・保育の専門性を活かした支援 |
| 11 | 保育士による子ども家庭支援の意義と基本② | 生活の場としての特性を活かした支援地域の施設としての専門性を活かした支援 |
| 12 | 子どもの育ちの喜びの共有① | 相談を通じた子どもの育ちの喜びの共有子どもの理解の促進 |
| 13 | 子どもの育ちの喜びの共有② | その子なりの成長を喜ぶ共感信頼関係につなげる保護者の自己尊重感を高める |
| 14 | 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 | ストレングス視点・エンパワーメント実践を理解する |
| 15 | 保育士に求められる基本的態度① | 受容的関わり秘密保持個別化（バイスティックの原則をもとに教科書に沿って授業を行う） |
| 16 | 保育士に求められる基本的態度② | 非審判的態度自己決定の尊重（バイスティックの原則をもとに教科書に沿って授業を行う） |
| 17 | 家庭の状況に応じた支援① | 家庭状況のアセスメント対応の検討 |
| 18 | 家庭の状況に応じた支援② | 支援方法の決定家庭機能を念頭に置いた支援 |
| 19 | 地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 | 地域資源の活用自治体・関係機関との連携・協力のポイント |
| 20 | 子育ての福祉を図るための社会資源 | 行政による家庭支援地域の公共施設による家庭支援多様な家族像と行政の動向 |
| 21 | 子育て支援施策 | エンゼルプランから子ども・子育てビジョン子ども子育て支援新制度待機児童の解消 |
| 22 | 次世代育成支援施策の推進 | 次世代育成支援対策推進法と子ども家庭支援次世代育成支援の活動・促進 |
| 23 | ワークライフバランス、男女共同参画 | 男女共同参画と家庭支援子育て家庭のワークライフバランス |
| 24 | 子ども家庭支援の内容と対象 | 放課後の子どもの居場所 |
| 25 | 保育所等を利用する子どもの家庭への支援① | 交流・相談支援 |
| 26 | 保育所等を利用する子どもの家庭への支援② | 情報提供の支援家族同士の話し合いの促進支援グループ活動に向けた支援 |
| 27 | 地域の子育て家庭への支援 | 子育てしやすい地域づくり社会変化へのはたらきかけ |
| 28 | 要保護児童等及びその家庭に対する支援 | 要保護児童およびその家庭に対する支援と連携 |
| 29 | 子ども家庭支援に関する現状と課題 | 子育ての社会化・価値近隣関係を通じた支援 |
| 30 | 総まとめ | まとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 社会的養護Ⅰ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 社会的養護Ⅰ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 『児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ』(改訂版) | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 社会的養護の意義について、子どもの人権擁護や保育士等の倫理と責務を踏まえて理解する。歴史的変遷を辿り、今日の社会的養護の制度や実施体系、施設養護や家庭養護の実際を学ぶ。さらに、社会的養護の現状と課題について、施設運営管理や被措置児童等虐待防止、地域福祉との関係を踏まえて考察する。 |
| 到達目標 | ①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。<br>②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。<br>③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。<br>④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。<br>⑤社会的養護の現状と課題について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 社会的養護Ⅱ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 橋本圭介 / 実務経験: ○ |
| 実務内容 | 埼玉県福祉サービス第三者評価調査員/社会福祉法人友愛会理事長/一般社団法人日本保育教育研究会理事/元・ファミリーソーシャルワーカーの経験をもとに、子どもの人権擁護や保育士等の倫理と責務を踏まえて社会的養護の意義を理解できるような授業を展開する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ，到達目標について |
| 2 | 現代社会における社会的養護の意義と変遷 | 社会的養護の理念と概念社会的養護の歴史的変遷 |
| 3 | 子どもの権利擁護と社会的養護 | 社会的養護と子どもの権利 |
| 4 | | 施設保育士の倫理と責務施設養護の現代的課題 |
| 5 | 家庭の機能と社会的養護 | 社会や家庭の役割家庭の役割 |
| 6 | | 児童養護の体系 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 社会的養護の基本原則Ⅰ養育 | 施設養護における養育 |
| 8 | | 生活の規模 |
| 9 | 社会的養護の基本原則Ⅱ保護 | 家庭からの保護 |
| 10 | | 外界からの保護 |
| 11 | 社会的養護の基本原則Ⅲ子どもであることの回復 | 虐待された子どもの理解と対応 |
| 12 | | 心理療法担当職員との連携 |
| 13 | 社会的養護の基本原則Ⅳ生活文化と生活力の習得 | 施設で生活文化を伝える意味 |
| 14 | | 生活力の習得生活の中における専門性の発揮 |
| 15 | 社会的養護の基本原則Ⅴ生命倫理観の醸成 | 入所児童の生活環境と生命倫理観 |
| 16 | | 専門職としての生命倫理 |
| 17 | 社会的養護の制度と実施体系 | 社会的養護の制度と法体系 |
| 18 | | 社会的養護の専門職・実施者社会的養護の仕組みと実施体系 |
| 19 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ | 乳児院と児童養護施設① |
| 20 | | 乳児院と児童養護施設② |
| 21 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ | 障害児の入所施設障害児入所施設における養護 |
| 22 | | 児童自立支援施設児童心理治療施設 |
| 23 | 家庭養護の特徴・対象・形態 | 家庭養護とは里親やファミリーホーム |
| 24 | | 家庭養護の特徴と社会的養護里親の認定・登録・研修と里親の現状里親ならではの悩み |
| 25 | 社会的養護の現状と課題 | 社会的養護に関する社会的状況施設の運営管理倫理の確立と保障 |
| 26 | | 被措置児童等の虐待防止社会的養護と地域福祉これからの児童福祉施設援助者 |
| 27 | 総まとめ① | 振り返りと総まとめ① |
| 28 | | 振り返りと総まとめ② |
| 29 | 総まとめ② | 振り返りと総まとめ③ |
| 30 | | 振り返りと総まとめ④ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子ども家庭支援の心理学 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学 | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 生涯発達と初期経験の重要性について理解するとともに、家族・家庭の理解や、子育て家庭に関する現状を理解する。 |
| 到達目標 | ・生涯発達に関する心理学の基礎知識及び、初期経験の重要性、発達課題等についての知識を習得する。<br>・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。<br>・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解し、それに伴った支援方法を習得する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 関根泰子 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 幼稚園教諭、保育士の経験をもとに、各発達段階において生じる子ども及び保護者の課題に対する対応について理解できるよう教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について |
| 2 | 生涯発達から支援を考える① | 乳幼児期の発達① |
| 3 | 生涯発達から支援を考える② | 乳幼児期の発達② |
| 4 | 生涯発達から支援を考える③ | 児童期の発達① |
| 5 | 生涯発達から支援を考える④ | 児童期の発達② |
| 6 | 生涯発達から支援を考える⑤ | 青年期の発達① |
| 7 | 生涯発達から支援を考える⑥ | 青年期の発達② |
| 8 | 生涯発達から支援を考える⑦ | 成人期の発達 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 生涯発達から支援を考える⑧ | 高齢期の発達 |
| 10 | 家族理解から支援を考える① | 家族・家庭の意義と機能① |
| 11 | 家族理解から支援を考える② | 家族・家庭の意義と機能② |
| 12 | 家族理解から支援を考える③ | 親子関係・家族関係の理解 |
| 13 | 家族理解から支援を考える④ | ライフコースと仕事・子育て状況① |
| 14 | 家族理解から支援を考える⑤ | ライフコースと仕事・子育て状況② |
| 15 | 家族理解から支援を考える⑥ | ライフコースと仕事・子育て状況③ |
| 16 | 総まとめ | 振り返り・解説 |
| 17 | 多様な家族への支援を考える① | 多様な家族の現状① |
| 18 | 多様な家族への支援を考える② | 多様な家族の現状② |
| 19 | 多様な家族への支援を考える③ | 多様な家族の現状③ |
| 20 | 多様な家族への支援を考える④ | 保護者の疾患や障害への配慮① |
| 21 | 多様な家族への支援を考える⑤ | 保護者の疾患や障害への配慮② |
| 22 | 多様な家族への支援を考える⑥ | 虐待への配慮① |
| 23 | 多様な家族への支援を考える⑦ | 虐待への配慮② |
| 24 | 子どものこころへの支援を考える① | 子どものストレス |
| 25 | 子どものこころへの支援を考える② | 睡眠、食事、排泄に関わる症状① |
| 26 | 子どものこころへの支援を考える③ | 睡眠、食事、排泄に関わる症状② |
| 27 | 子どものこころへの支援を考える④ | 子どもに見られる症状① |
| 28 | 子どものこころへの支援を考える⑤ | 子どもに見られる症状② |
| 29 | 子どものこころへの支援を考える⑥ | 発達障害 |
| 30 | 総まとめ | 振り返り・解説 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 子どもの理解と援助 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子どもの理解と援助 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 実践につながる新しい子どもの理解と援助 | | 出版社 | ミネルヴァ書房 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 子どもの各年齢ごとの育ちや抱える課題等を学び、具体的な援助や態度を知る。 |
| 到達目標 | １．保育実践において子ども一人一人の実態に応じた心身の発達や、学びを把握することの意義を習得する。<br>２．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を習得する。<br>３．子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 加藤ゆうか　　実務経験　○ |
| 実務内容 | 私立幼稚園にて幼稚園教諭として10年、私立保育園にて保育士として2年勤務した経験から、子どもの各年齢ごとの育ちや抱える課題等の理解、具体的な援助について教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダインス | 授業の進め方について<br>なぜ子どもの理解が必要なのか |
| 2 | 子ども理解と援助の基本① | 保育者が抱える問題の理解 |
| 3 | 子ども理解と援助の基本② | 保育者に求められるもの<br>子ども理解と援助に必要なこと |
| 4 | 胎児・０歳から１歳児の理解と援助① | 胎児～０歳児の育ち |
| 5 | 胎児・０歳から１歳児の理解と援助② | １歳児のの育ち |
| 6 | 胎児・０歳から１歳児の理解と援助③ | ０～１歳児が主体となる保育の捉え方 |
| 7 | ２歳から３歳児の理解と援助① | ２歳児の育ち |
| 8 | ２歳から３歳児の理解と援助② | ３歳児の育ち |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | ２歳から３歳児の理解と援助③ | ２・３歳児の保育の環境と展開 |
| 10 | ４歳から６歳児の理解と援助① | 現代の子どもの育ちを取り巻く課題<br>４歳児の育ち① |
| 11 | ４歳から６歳児の理解と援助② | ４歳児の育ち② |
| 12 | ４歳から６歳児の理解と援助③ | ５・６歳児の育ち |
| 13 | 保育の観察と記録① | 保育における観察と記録<br>記録を生かした保育実践 |
| 14 | 保育の観察と記録② | 幼保小連携の在り方 |
| 15 | 総まとめ① | 振り返り・解説 |
| 16 | 発達障害児とその家族支援① | 発達障害児とは |
| 17 | 発達障害児とその家族支援② | 発達障害児の理解 |
| 18 | 発達障害児とその家族支援③ | 発達障害児と家族の支援 |
| 19 | 外国にルーツをもつ子どもとその家族支援① | 外国にルーツを持つ子どもとは |
| 20 | 外国にルーツをもつ子どもとその家族支援② | 外国にルーツを持つ子どもとの保育環境と支援 |
| 21 | 外国にルーツをもつ子どもとその家族支援③ | 外国にルーツを持つ子どもの家庭支援 |
| 22 | 保育における協働と連携の意義① | 協働・連携とは<br>多職種や地域との協働・連携① |
| 23 | 保育における協働と連携の意義② | 多職種や地域との協働・連携② |
| 24 | 保育における協働と連携の意義③ | 今、ここに生きる子どもの育ちを見つめて |
| 25 | 子どもの理解に基づく発達援助① | 幼児期の発達とその対応例① |
| 26 | 子どもの理解に基づく発達援助② | 幼児期の発達とその対応例② |
| 27 | 児童期以降の発達① | 児童期 |
| 28 | 児童期以降の発達② | 青年期 |
| 29 | 児童期以降の発達③ | 成人期<br>老年期 |
| 30 | 総まとめ② | 振り返り・解説 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 保育課程論 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育課程論 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 保育の計画と評価ー豊富な例で１からかわる<br>幼稚園教育要領保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本 | | 出版社 | 萌文書林<br>チャイルド社 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 保育における計画及び評価の重要性について理解する。保育の全体的な計画の編成と指導計画の作成について事例を通して、意義と方法を学ぶ。子ども理解に基づく保育の過程について（計画⇒実践⇒省察・評価⇒改善）その構造を捉え、保育内容の充実と質の向上について考える。 |
| 到達目標 | １．保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。<br>２．全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。<br>３．子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 池田和司 |
| 実務経験 | |
| 実務内容 | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、ねらい、評価方法説明 |
| 2 | 保育における計画と評価の意義 | 保育における計画と評価の意義について |
| 3 | カリキュラムの基礎理論 | カリキュラムの基礎理論について |
| 4 | 教育課程・保育課程の歴史と変遷 | 教育課程・保育課程の変遷とその社会的背景について |
| 5 | 社会の変化と保育に求められるもの | 平成29年の幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂とその背景について |
| 6 | 幼稚園における計画 | 幼稚園の目的、目標、5領域との関連について |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 保育所・認定こども園における<br>教育・保育の計画 | 保育所・認定こども園の目的、目標、5領域との関連について |
| 8 | 教育課程の編成の実際 | 教育課程を編成する際に考慮すべき事項について |
| 9 | 子ども理解に基づく計画と評価 | 年齢ごとの一般的な発達過程、子どもの理解の観点の理解 |
| 10 | 指導計画におけるねらいと内容 | 「ねらい」と「内容」の意味 |
| 11 | 第１回復習 | これまでの復習 |
| 12 | 指導計画案の作成と展開① | 長期の指導計画と短期の指導計画の特徴の違いについて |
| 13 | 指導計画案の作成と展開② | 3歳未満児の指導計画の作成について |
| 14 | 指導計画案の作成と展開③ | 3歳以上児の指導計画の作成について |
| 15 | 指導計画案の作成と展開④ | 食育計画、子育て支援計画、保健・安全に関する計画、行事の計画を学ぶ |
| 16 | 保育の省察および記録 | 子ども理解と記録の重要性について |
| 17 | 保育の評価と改善PDCAサイクルの考え方 | 保育の実践の評価と、PDCAサイクルによる保育の質の向上について |
| 18 | 第２回復習 | これまでの復習 |
| 19 | 総復習 | 総復習 |
| 20 | 保育課程論教材・指導案の研究① | 「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について |
| 21 | 保育課程論教材・指導案の研究② | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 22 | 保育課程論教材・指導案の研究③ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 23 | 保育課程論教材・指導案の研究④ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 24 | 保育課程論教材・指導案の研究⑤ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 25 | 保育課程論教材・指導案の研究⑥ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 26 | 保育課程論教材・指導案の研究⑦ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 27 | 保育課程論教材・指導案の研究⑧ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 28 | 保育課程論教材・指導案の研究⑨ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 29 | 保育課程論教材・指導案の研究⑩ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 30 | 総まとめ | 授業のまとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 保育内容総論 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育内容総論 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 生活事例からはじめる保育内容総論<br>幼稚園教育要領保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本<br>保育する力 | | 出版社 | 青踏社<br>チャイルド本社<br>ミネルヴァ書房 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | 保育の全体構造を理解し「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容の関連を学ぶ。子どもの発達や社会状況、保育内容の歴史等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即して、多様な保育展開ができるよう具体的な保育の過程につなげて理解する。 | | |
| 到達目標 | １．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。<br>２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。<br>３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。<br>４．保育の多様な展開について具体的に理解する。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 | | |
| 関連科目 | なし | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | 関野友恵 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 私立幼稚園にて幼稚園教諭として20年以上勤めた経験から、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即して多様な保育展開ができるよう教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、ねらい、評価方法説明 |
| 2 | 「保育内容」のねらいと内容① | 保育の目的・保育内容について |
| 3 | 「保育内容」のねらいと内容② | 保育の目的・保育内容について |
| 4 | 保育内容の変遷① | 保育内容の歴史的変遷と社会状況との関連について |
| 5 | 保育内容の変遷② | 保育内容の歴史的変遷と社会状況との関連について |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 「遊び」について | 子どもにとって遊びとは何かについて |
| 7 | 行事をめぐって① | 行事の意味、園行事の指導計画について |
| 8 | 行事をめぐって② | 行事の意味、園行事の指導計画について |
| 9 | 「領域」の考え方① | 保育内容「5領域」について |
| 10 | 「領域」の考え方② | 保育内容「5領域」について |
| 11 | 「領域」の考え方③ | 保育内容「5領域」について |
| 12 | 第１回復習 | これまでの復習 |
| 13 | 保育の多様な展開① | 個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について |
| 14 | 保育の多様な展開② | 個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について |
| 15 | 保育の多様な展開③ | 個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について |
| 16 | 保育の多様な展開④ | 個別の支援の必要性、子ども理解、幼保小・地域の連携、保育の多様化について |
| 17 | 保育の記録① | 保育における自己評価、子どもをより理解するための記録について |
| 18 | 保育の記録② | 保育における自己評価、子どもをより理解するための記録について |
| 19 | 第２回復習 | これまでの復習 |
| 20 | 保育の今日的課題① | 保育の今日的な課題について |
| 21 | 保育の今日的課題② | 保育の今日的な課題について |
| 22 | 保育の今日的課題③ | 保育の今日的な課題について |
| 23 | 保育の今日的課題④ | 保育の今日的な課題について |
| 24 | 保育内容総論全般の教材等の研究① | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究 |
| 25 | 保育内容総論全般の教材等の研究② | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究 |
| 26 | 保育内容総論全般の教材等の研究③ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究 |
| 27 | 保育内容総論全般の教材等の研究④ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究 |
| 28 | 保育内容総論全般の教材等の研究⑤ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究 |
| 29 | 保育内容総論全般の教材等の研究⑥ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材等の研究 |
| 30 | 総まとめ | 授業のまとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 乳児保育Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 乳児保育Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 『アクティブ・ラーニング対応乳児保育一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践Ⅱ』 | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 乳児保育Ⅰで学んだ基本的考え方を軸に、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり方、配慮の実際を具体的に学ぶ。養護と教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育方法、環境について、計画の作成や演習を通して具体的に学ぶ。 |
| 到達目標 | １、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。<br>２、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。<br>３、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。<br>４、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。<br>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 乳児保育Ⅰ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 加藤ゆうか　　実務経験　○ |
| 実務内容 | 私立幼稚園にて幼稚園教諭として10年、私立保育園にて保育士として2年勤務した経験から、発育・発達の過程や特性を踏まえた援助・関わり方等について教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 初回オリエンテーション | 流れ、到達目標の確認 |
| 2 | 乳幼児の基本 | 1.乳児保育とは　2.人的および空間的観点から捉える「養護」　3.時間的観点から捉える「養護」 |
| 3 | 子どもの主体性の尊重と自己の育ち | 1.生命の保持　2.情緒の安定 |
| 4 | 個々の子どもに応じた援助や<br>受動的・応答的関わり | 2.0歳児の保育内容　3.年齢と発達過程 |
| 5 | 子どもの体験と学びの芽生え | 1.育みたい資質・能力　2.乳児期の終わりまでに育ってほしい姿 |
| 6 | 多様な保育 | 1.障害のある子の支援と保護者支援　2.外国籍家庭などへの支援3.家庭の事情 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 8 | 乳児保育における生活・遊びの実際と援助 | 1.１日の流れで考えることの意味と必要性　2.１日の流れを意識した活動の計画と環境の構成<br>3.発達と個性の視点から１日の流れを考える |
| 9 | ０歳児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの実際 | 1.０歳児保育で大切にしたいこと<br>2.０歳児の発達<br>3.０歳児の生活（気持ちの安定、睡眠・生活リズム、授乳・食事、おむつ交換・着替え）<br>4.０歳児の遊び |
| 10 | | |
| 11 | | |
| 12 | 1～３歳児未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際 | 1.健康　2.人間関係　3.環境　4.言葉　5.表現 |
| 13 | | |
| 14 | | |
| 15 | | |
| 16 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 17 | 子ども同士の関わりとその援助の実際 | 1.保育者との遊び　2.子ども同士の遊び　3.生活での子ども同士の関わり |
| 18 | 乳児保育における配慮の実際 | 1心身の健康への配慮　2.安全への配慮　3.情緒の安定を図るための配慮 |
| 19 | 実践編 | 1.ベーシックワーク<br>2.エピソードワーク<br>3.ロールプレイワーク<br>4.解説 |
| 20 | | |
| 21 | | |
| 22 | | |
| 23 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 24 | 集団での生活における配慮 | 1.運営上の基準と担当制による配慮　2.担当制による配慮　3.集団での生活リズム |
| 25 | 環境の変化や移行に対する配慮 | 1.家庭環境と園環境 |
| 26 | 実践午後のお迎え・お帰り | 1.ベーシックワーク　2.エピソードワーク　3.ロールプレイワーク　4.解説 |
| 27 | 乳児保育における計画と実際 | 長期計画と短期計画 |
| 28 | 乳児保育における計画と実際 | 個別的指導計画と集団の指導計画 |
| 29 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 30 | まとめ | 総まとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 子どもの健康と安全 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子どもの健康と安全 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 子どもの健康と安全 | | 出版社 | 教育情報出版 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 子どもの身体発育・発達の理解や健康状態の把握、疾病や事故の予防や対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学ぶ。 |
| 到達目標 | 1．保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。<br>2．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。<br>3．子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。<br>4．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。<br>5．保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。<br>6．子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | なし |
| 関連科目 | 保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| 担当教員 | 田中侑香 | 実務経験 | ○ |
|---|---|---|---|
| 実務内容 | 私立学校での養護教諭保健室7年間勤務の経験をもとに、保育における保健的対応に必要な基礎的事項を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 5節/子どもと血液の病気 |
| 2 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 6節/子どもと消化器の病気 |
| 3 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 7節/子どもと悪性腫瘍 |
| 4 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 8節/子どもと精神神経系の病気 |
| 5 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 9節/子どもと泌尿器・生殖器の病気 |
| 6 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 10節/子どもと皮膚の病気 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 11節/子どもと整形外科的病気 |
| 8 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 12節/子どもと口腔の病気 |
| 9 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 13節/子どもと眼の病気 |
| 10 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 14節/子どもと耳・鼻の病気 |
| 11 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 15節/子どもと内分泌の病気 |
| 12 | 第9章<br>子どもの病気と予防・手当 | 16節/子どもと予防接種 |
| 13 | 第10章<br>保健的観点を踏まえた保育環境と援助 | 子どもの健康と安全オリエンテーション<br>1節/子どもの健康と保育の環境 |
| 14 | 第10章<br>保健的観点を踏まえた保育環境と援助 | 2節/子どもの保健に関する個別的対応<br>3節/子どもの集団全体の健康と安全管理 |
| 15 | 第11章<br>保育における健康と安全の管理 | 1節/子どもの衛生管理 |
| 16 | 第11章<br>保育における健康と安全の管理 | 2節/子どもの事故防止と安全対策 |
| 17 | 第11章<br>保育における健康と安全の管理 | 3節/子どもの危機管理と災害への備え |
| 18 | 第12章<br>子どもの体調不良・けがと応急手当 | 1節/子どもの体調不良・けがと応急手当 |
| 19 | 第12章<br>子どもの体調不良・けがと応急手当 | 2節/応急処置と救急蘇生法 |
| 20 | 第13章<br>子どもの保健と感染症対策ガイドライン | 1節/「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防 |
| 21 | 第13章<br>子どもの保健と感染症対策ガイドライン | 2節/「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく対処 |
| 22 | 第14章<br>個別な配慮を要する子どもへの対応 | 1節/保育における保健的対応<br>2節/3歳児未満への対応 |
| 23 | 第14章<br>個別な配慮を要する子どもへの対応 | 3節/アレルギー疾患への対応 |
| 24 | 第14章<br>個別な配慮を要する子どもへの対応 | 4節/その他の慢性疾患への対応 |
| 25 | 第14章<br>個別な配慮を要する子どもへの対応 | 5節/障害のある子ども、医療的ケア児への対応 |
| 26 | 第15章<br>子どもと保健指導 | 1節/子どもの保健と行政<br>2節/子どもの集団と保健行事 |
| 27 | 第15章<br>子どもと保健指導 | 3節/子どもの保健指導 |
| 28 | 第16章<br>子どもの健康と安全管理の実施体制 | 1節/職員間の連携・協働と組織的取組 |
| 29 | 第16章<br>子どもの健康と安全管理の実施体制 | 2節/保健活動の計画と評価 |
| 30 | 第16章<br>子どもの健康と安全管理の実施体制 | 3節/母子保健・地域保健における自治体との連携<br>4節/家庭・専門機関・地域の関係機関等との連携 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 社会的養護Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 社会的養護Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』（改訂版） | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 施設養護及び家庭養護の実際について具体的に理解する。社会的養護の必要な子どもの特性や現状を踏まえ、日常生活支援、治療的支援、自立支援の視点で事例から実践的に学ぶ。また、家庭支援、アセスメントの方法や個別の支援計画、記録、自己評価など、ソーシャルワークの専門的技術と知識を学ぶ。 |
| 到達目標 | ①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。<br>②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。<br>③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。<br>④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。<br>⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 社会的養護Ⅰ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| 担当教員 | 橋本圭介 | 実務経験 | ○ |
|---|---|---|---|
| 実務内容 | 埼玉県福祉サービス第三者評価調査員／社会福祉法人友愛会理事長／一般社団法人日本保育教育研究会理事／元・ファミリーソーシャルワーカーの経験をもとに、施設養護及び家庭養護の実際について具体的に理解できるよう教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>社会的養護における子ども理解と支援の基本① | 子どもの最善の利益 |
| 2 | 社会的養護における子ども理解と支援の基本② | 生存と発達の保障 |
| 3 | 社会的養護における子ども理解と支援の基本③ | 児童自立支援計画の作成と記録及び自己評価 |
| 4 | 社会的養護における子ども理解と支援の基本④ | 子どもの権利を守る仕組み |
| 5 | 社会的養護における保育士等の専門性① | 支援者としての資質と倫理 |
| 6 | 社会的養護における保育士等の専門性② | バーンアウトと共依存の予防 |
| 7 | 児童養護の体系と児童福祉施設の概要 | 児童養護の体系児童福祉施設の概要 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際① | 児童養護施設の暮らし |
| 9 | 施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際② | 乳児院と母子生活支援施設の暮らし |
| 10 | 施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際③ | 医療型障害児入所施設の暮らし |
| 11 | 施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際④ | 治療的支援と児童自立支援施設・児童心理治療施設の暮らし |
| 12 | 施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際⑤ | 福祉型障害児入所施設の暮らし |
| 13<br>14 | 施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際⑥ | 里親制度の特徴とその実際 |
| 15<br>16 | 前半の内容の試験 | まとめ |
| 17<br>18 | 心の傷を癒し、心を育むための援助① | 保育士の業務 |
| 19 | 心の傷を癒し、心を育むための援助② | 虐待された子どもへの支援 |
| 20 | 心の傷を癒し、心を育むための援助③ | 虐待への対応 |
| 21 | 親子関係の調整① | 子どもと家族への支援 |
| 22 | 親子関係の調整② | 児童相談所との連携家庭支援 |
| 23 | 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践① | 相談援助の技術の活用 |
| 24 | 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践② | 入所から退所後に至る支援と基本的日常生活支援 |
| 25 | 地域連携と家庭支援① | 施設の小規模化・地域分散化 |
| 26 | 地域連携と家庭支援② | 地域とのかかわりと家庭支援 |
| 27 | 地域住民と施設 | 地域と施設の関係 |
| 28 | 後半のまとめ | 後半の内容のまとめと振り返り・レポート提出 |
| 29<br>30 | 総まとめ | 学習内容の総まとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 子育て支援 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子育て支援 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 『生活事例からはじめる子育て支援』 | | 出版社 | 青踏社 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | 子育て支援の原則をよく理解し、保育における相談や子育てに関する保護者の悩みへの対応について事例を考察しながら学び、保護者の子育て支援ができる知識と技術を身につける。 | | |
| 到達目標 | ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。<br>②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 保育士 | | |
| 関連科目 | なし | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | 香川順子/木村和孝 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 香川/保育士として19年間・幼稚園教諭として8年間勤務<br>木村/保育園園長<br>以上の経験から保育における相談や子育てに関する保護者対応について教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ・授業の流れ、到達目標について |
| 2 | 子どもの保育とともに行なう保護者の支援 | ・保護者をコーディネーターに<br>・保育を通じて保護者への支援を行う |
| 3 | 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成① | ・保護者との相互理解<br>・信頼関係の形成 |
| 4 | 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成② | |
| 5 | 保護者や家族の抱える支援のニーズへの気付きと多面的な理解 | ・保護者会からのニーズ把握・保護者の様子や会話からのニーズ把握<br>・子どもの様子からのニーズ把握 |
| 6 | 子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供 | ・他の家族、地域住民との関係調整・地域環境への働きかけ<br>・自治会等との連携・協力 |
| 7 | 子どもおよび保護者の状況・状態の把握 | ・事前の相互理解<br>・状況・状態の把握 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 支援の計画と環境の構成 | ・支援計画づくり<br>・支援計画の考え方 |
| 9 | 支援の実践と記録 | ・支援の実践<br>・記録の意味、種類、方法と留意点、開示と管理 |
| 10 | 評価 | ・多角的な評価・終結時の評価・プロセス評価<br>・成果評価・評価の活用 |
| 11 | カンファレンス | ・カンファレンスの目的と内容<br>・カンファレンスの方法 |
| 12 | 職員間の連携・協働 | ・保育士同士の連携・他職種の職員との連携<br>・守秘義務と職員間の連携 |
| 13 | 社会資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働 | ・社会資源の活用、調整、開発<br>・自治体・関連機関との協働 |
| 14 | 振り返り | 振り返りを実施する |
| 15 | 前期まとめ | 振り返りと前期のまとめを行う |
| 16 | 保育所等における支援① | ・家庭の実態を知り、子どもの最善の利益を守る<br>・子どもの実態を知り、子どもの立場を代弁する<br>・親子を知り、その関係をつなぐ・連絡や通信による子育て支援<br>・気軽に相談できる場 |
| 17 | 保育所等における支援② | |
| 18 | 地域の子育て家庭に対する支援 | ・孤立の解消・ストレスへの対応<br>・子育て不安への対応・保育知識の提供 |
| 19 | 地域を舞台とした子育て支援 | ・地域住民の関係づくりを通じた子育て支援・地域社会とのかかわりの促進<br>・保護者の自立への支援・社会変化への働きかけ |
| 20 | 障害のある子どもおよびその家族に対する支援 | ・障害児の保護者への相談支援・障害の受容への支援<br>・発達障害がある子どもへの保護者対応 |
| 21 | 特別な配慮を要する子どもおよびその家族に対する支援 | ・地域における特別な配慮へのニーズ把握・施設入所の児童・障害児における子育て支援<br>・福祉サービスを活用した支援・外国につながる子ども |
| 22 | 子ども虐待の予防と対応 | ・虐待の早期発見と対応・児童虐待への対応<br>・児童虐待の早期発見と対応・虐待の類型と保護者支援 |
| 23 | 要保護児童等の家庭に対する支援 | ・社会資源を活用して保護者とともにとり組む<br>・連携できるネットワークをつくる・自己決定を尊重する |
| 24 | 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 | ・個々のニーズに応じた家族支援・「気になる」親子に潜む課題<br>・多様化する子育て支援の課題・家族保全・苦情への対応・秘密の保持 |
| 25 | 保育士の行なう子育て支援の技術① | ・グループを活用した相談援助の過程、方法、技術<br>・地域環境に働きかける子育て支援の技術<br>・社会活動法(ソーシャルアクション)<br>・近隣集団会議<br>・ソーシャル・スキル・トレーニング |
| 26 | 保育士の行なう子育て支援の技術② | |
| 27 | 保育士の行なう子育て支援の技術③ | |
| 28 | 保育士の行なう子育て支援の技術④ | |
| 29 | まとめ | 後期まとめ確認を行う |
| 30 | 後期まとめ | 振り返りと後期のまとめを行う |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 実習 | 科目名 | 保育実習Ⅰ(保育所) | | |
| 必修選択 | 必修 | (学則表記) | 保育実習Ⅰ(保育所) | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 90 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。 |
| 到達目標 | ①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。<br>②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。<br>③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。<br>④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。<br>⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 |
| 評価基準 | 実習評価(40%)、日誌・指導案(60%)を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導内容を総合的に評価する。 |
| 認定条件 | 実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。成績評価が３以上の者。<br>保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を取得している者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅰ（保育所） |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 角田邦人 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育士として20年間、認可保育園園長として10年間勤務の経験から、保育実習を通し、保育所の機能と保育士の職務を理解させられるよう教授する。 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 実習 | 科目名 | 保育実習Ⅰ(施設) | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 保育実習Ⅰ(施設) | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 90 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 児童福祉施設や障害者支援施設にて実習を行い、保育士として必要とされる子ども・施設利用者に対する理解を深める。 |
| 到達目標 | ①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。<br>②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。<br>③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。<br>④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。<br>⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 |
| 評価基準 | 実習評価(40%)、日誌・指導案(60%)を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導内容を総合的に評価する。 |
| 認定条件 | 出席が90単位時間以上ある者。成績評価が３以上の者。<br>保育実習指導Ⅰ（施設）の単位を取得している者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅰ（施設） |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 長山千愛/吉村英恵 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 長山/幼保連携型認定こども園の幼稚園にて、幼稚園教諭として6年間勤務<br>吉村/私立幼稚園にて、幼稚園教諭として８年間勤務<br>以上の経験から、施設実習を通し、保育士として必要とされる子ども・施設利用者に対する理解を深め、施設職員の職務を理解させられるよう教授する。 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 保育実践演習 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育実践演習 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | ０～５歳児の発達にあったあそびパーフェクトＢＯＯＫ | | 出版社 | ナツメ社 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 実際の保育現場における設定保育や園行事の運営を模擬的に体験し、行事の成り立ちを理解し、留意点に気づく。<br>子どもの育ちと遊びの関連性について理解し、具体的な遊びを立案、実践できる。 |
| 到達目標 | ①指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。<br>②保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。<br>③①及び②を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習指導Ⅰ（施設）・保育実習指導Ⅱ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 田中美和 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 私立幼稚園・保育園で10年以上幼稚園教諭・保育士として勤務した経験から、行事の成り立ちや子どもの育ちと遊びの関連性について理解し、具体的な遊びを立案、実践できるスキルを教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要、ねらい等の説明<br>1年生の授業の振り返り |
| 2 | 遊びのどうしよう？対処法<br>第1章ふれあいあそび | あそびの中での「どうしよう」について考える<br>あそびから育ちを知る |
| 3 | 第1章ふれあいあそび | ふれあいあそびの立案、準備<br>ふれあいあそびの模擬保育(グループ内発表) |
| 4 | 第1章ふれあいあそび | ふれあいあそびの模擬保育(全体発表)<br>ふれあいあそび振り返り、発表フィードバック |
| 5 | 模擬行事① | 行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入<br>グループごとに演目種目の立案、準備 |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 模擬行事① | 模擬行事の準備 |
| 7 | 模擬行事① | 模擬行事の準備<br>模擬行事の実施 |
| 8 | 模擬行事① | 模擬行事の実践<br>模擬行事振り返り、フィードバック |
| 9 | 第2章運動あそび | あそびから育ちを知る<br>年齢に応じた運動あそびについて知る立案 |
| 10 | 第2章運動あそび | 運動あそびの立案、準備<br>運動あそびの模擬保育 |
| 11 | 第2章運動あそび | 運動あそびの模擬保育(グループ内発表)<br>運動あそびの模擬保育(全体発表) |
| 12 | 第2章運動あそび | 運動あそびの模擬保育(全体発表)<br>運動あそび振り返り、発表フィードバック |
| 13 | 模擬行事② | 行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入<br>グループごとに演目種目の立案、準備 |
| 14 | 模擬行事② | 模擬行事の準備 |
| 15 | 模擬行事② | 模擬行事の準備 |
| 16 | 模擬行事② | 模擬行事の準備 |
| 17 | 模擬行事② | 模擬行事の準備 |
| 18 | 模擬行事② | 模擬行事の実践<br>模擬行事振り返り、フィードバック |
| 19 | 第4章造形あそび | あそびから育ちを知る<br>年齢に応じた造形あそびについて知る立案 |
| 20 | 第4章造形あそび | 造形あそびの立案、準備<br>造形あそびの模擬保育(グループ内発表) |
| 21 | 第4章造形あそび | 造形あそびの模擬保育(全体発表)<br>造形あそび振り返り、発表フィードバック |
| 22 | 模擬行事③ | 行事運営の成り立ち、役割等の解説、導入<br>グループごとに演目種目の立案、準備 |
| 23 | 模擬行事③ | 模擬行事の準備 |
| 24 | 模擬行事③ | 模擬行事の準備 |
| 25 | 模擬行事③ | 模擬行事の準備 |
| 26 | 模擬行事③ | 模擬行事の実践<br>模擬行事振り返り、フィードバック |
| 27 | 知育おもちゃ＆感覚おもちゃ作り | 実際の園で使える「知育おもちゃ」や「感覚おもちゃ」について学び、各自で作る |
| 28 | 知育おもちゃ＆感覚おもちゃ作り | 他の人の作った「知育おもちゃ」と「感覚おもちゃ」の完成品を観覧して省察する |
| 29 | ちょこっとあそび | ちょこっとあそびについて<br>ちょこっとあそびの発表、振り返り |
| 30 | 年間授業振り返り | 7つのあそびから育ちを知る振り返り<br>年間の模擬保育、模擬行事の振り返り、フィードバック |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 幼児理解の理論と方法 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 幼児理解の理論と方法 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 子ども理解・幼児理解―ビジュアルエイドー | | 出版社 | 大学図書出版 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 子どもの生活や遊びの中からその発達や学びについての理解を深めるため、そして集団の中での一人ひとりの子どもへの理解を深めるための、記録や観察方法、子どもの行為の裏にある「思い」に気づき、寄り添うまなざしとそれに基づく援助について学び、保育者の役割について考える。 |
| 到達目標 | １、発達的側面からの理解、関わりながらの理解、個と集団の理解などを知ることで、保育は様々な視点から考慮されているものであることを十分に理解し、指導方法を考えることができる<br>２、幼児理解を深める観察と記録、園内研修の在り方について理解している<br>３、幼保小の接続の意義、保護者の理解と支援について理解し、対応の方法を例示することができる |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | なし |
| 関連科目 | 保育科:保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 竹内直美 |
| 実務経験 | |
| 実務内容 | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ、到達目標、評価基準について |
| 2 | 第１章<br>子ども理解とは | 子ども理解からの出発・これまでのやり方への反省から「一人一人の特性に応じた教育」へ |
| 3 | 第２章<br>子ども像・子ども観と子ども理解① | 子ども像とは<br>子ども像と子ども観 |
| 4 | 第２章<br>子ども像・子ども観と子ども理解② | レッジョ・エミリアの子ども観<br>子ども観・子ども像と保育実践 |
| 5 | 第３章<br>乳幼児期にふさわしい生活とは① | 「幼児期の教育における見方・考え方」 |
| 6 | 第３章<br>乳幼児期にふさわしい生活とは② | 二重の現実<br>生活の中で文化を伝える |
| 7 | 第４章<br>子ども理解における発達的観点① | 子どもを理解するということ |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 第４章<br>子ども理解における発達的観点② | 発達に関わるさまざまな視点 |
| 9 | 第５章<br>子ども理解における保育者の姿勢① | 人的環境としての保育者の姿勢<br>保育の中での保育者の姿勢 |
| 10 | 第５章<br>子ども理解における保育者の姿勢② | 保育者自身の感情 |
| 11 | 第６章<br>乳児期と子ども理解① | 乳児期からの保育と乳児理解<br>生活環境は相互に関わり乳児の育ちに影響 |
| 12 | 第６章<br>乳児期と子ども理解② | 心地よい生活の中での乳児理解とは<br>一人ひとりの育つ力を通して理解する乳児理解 |
| 13 | 第７章<br>個と集団の関係の理解と援助① | 学級集団をどう<br>見るか |
| 14 | 第７章<br>個と集団の関係の理解と援助② | 協同性を身につけていく２つのルート |
| 15 | まとめ | 前期まとめ |
| 16 | 第８章<br>保育の中の子ども理解 | さまざまな子ども理解の観点<br>相互の関わりから築かれる信頼関係 |
| 17 | 第９章<br>プロジェクト活動と子ども理解① | プロジェクト活動とは<br>日本における取り組み |
| 18 | 第９章<br>プロジェクト活動と子ども理解② | 保育者たちのプロジェクト活動<br>プロジェクト活動と保育計画 |
| 19 | 第１０章<br>子ども理解と評価 | 「幼稚園教育要領」における評価<br>「保育所保育指針」における評価 |
| 20 | 第１１章<br>保育における観察と記録の実際① | 遊びの楽しい様子から保育実践の記録をスタート<br>記録を取る意義と方法 |
| 21 | 第１１章<br>保育における観察と記録の実際② | 子ども理解のため記録<br>保育の記録の意義と生かし方 |
| 22 | 第１２章<br>保育を深めるための組織づくり① | 保育者間の対話とその意義 |
| 23 | 第１２章<br>保育を深めるための組織づくり② | ファシリテーションを用いた「保育の学び」 |
| 24 | 第１３章<br>保護者理解と援助① | 子育て支援の必要性 |
| 25 | 第１３章　保護者理解と援助②<br>第１４章　特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助① | 保護者と一緒に子どもを育てる<br>障害のある子どもと共に育つことの大切さ |
| 26 | 第１４章<br>特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助② | 子どもの気になる行動の捉え方<br>障害特性と支援の考え方 |
| 27 | 第１４章<br>特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助③ | 事例を通して子どもの理解とその対応を学び<br>外国籍の子どもの理解と保育 |
| 28 | 第１５章<br>発達の連続性と就学の支援① | 発達の連続性と学びの連続性・家庭における学習の基礎となる学びに向かう力・子どもの捉え方と教師の役割 |
| 29 | 第１５章<br>発達の連続性と就学の支援② | 発達の連続性と学びの連続性・家庭における学習の基礎となる学びに向かう力・子どもの捉え方と教師の役割 |
| 30 | まとめ | 後期まとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 教育相談 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 教育相談 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | スギ先生と学ぶ教育相談のきほん | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 幼児、児童の抱える様々な問題に対して解決のための支援は、教師の大切な役割の一つである。本講義では教育相談の理論や方法、心得ておくべきカウンセリングの基礎知識とその方法を身につける。 |
| 到達目標 | 1.子どもの発達や心の問題とその背景を理解し、カウンセリングマインドを活かして、子どもや保護者とかかわる姿勢を習得する。<br>2.保育に活かす教育相談の理論や具体的な進め方について習得する。<br>3.他者の気持ちを想像する力を高めるなど、保育者としての傾聴・受容の知識及び技術を習得する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 黒米聖 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認可保育園での園長を8年間務めた経験から、教育相談の理論や方法、カウンセリング知識を教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダインス | 授業の進め方について<br>教育相談を学ぶ意味 |
| 2 | 教育相談とは① | 教育相談の意義 |
| 3 | 教育相談とは② | 園における様々な教育相談の形 |
| 4 | 子ども理解 | 子ども理解の方法 |
| 5 | 保護者への支援 | 保護者理解とは<br>保護者理解のポイント |
| 6 | カウンセリングマインド① | ロジャーズの来談者中心療法 |
| 7 | カウンセリングマインド② | 保育者とカウンセリングマインド |
| 8 | カウンセリング技法 | 傾聴とは何か<br>言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 教育相談体制 | 園内の教育相談体制<br>特別支援教育コーディネーターとは |
| 10 | 外部機関との連携 | 連携する専門機関<br>連携の留意点 |
| 11 | 保育者のメンタルヘルス① | 保育者のストレスとは |
| 12 | 保育者のメンタルヘルス② | 医療・福祉専門職のメンタルヘルス |
| 13 | 保育におけるカウンセリング① | 子育てに耳を傾けることの意味 |
| 14 | 保育におけるカウンセリング② | カウンセリング（面接）方法 |
| 15 | 総まとめ① | 振り返り<br>解説 |
| 16 | 情報の伝達① | 伝達のための適切な言葉とは |
| 17 | 情報の伝達② | 通信を利用した情報提供の仕方① |
| 18 | 情報の伝達③ | 通信を利用した情報提供の仕方② |
| 19 | 子ども理解と保護者支援① | 教育現場における行動療法① |
| 20 | 子ども理解と保護者支援② | 教育現場における行動療法② |
| 21 | 就学相談① | 就学相談とは |
| 22 | 就学相談② | 就学相談と面接 |
| 23 | アセスメント① | 他者理解とアセスメント |
| 24 | アセスメント② | 多様なアセスメント方法 |
| 25 | 気になる子ども・保護者への対応① | 「問題行動」とは |
| 26 | 気になる子ども・保護者への対応② | いじめのメカニズム |
| 27 | 気になる子ども・保護者への対応③ | 登園しぶりをする子どもについて |
| 28 | 社会性の発達のつまずきとその理解① | つまずきに関連する障害の病理や特徴 |
| 29 | 社会性の発達のつまずきとその理解② | 教育現場における合理的配慮 |
| 30 | 総まとめ② | 振り返り解説 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 教育の方法と技術 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 教育の方法と技術 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 実践につながる新しい幼児教育の方法と技術 | | 出版社 | ミネルヴァ書房 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | ・子どもの学びを支える教育方法や教育技術、教育目標や教授方法などについて理解する。<br>・学校現場におけるツールを効果的に活用した教育計画、実施、教材の開発、授業評価に関わる知識と技術を習得する。<br>・教師を目指す学生自身のICT活用能力を高める。<br>・教育的な実践力を身に付ける。 |
| 到達目標 | ①西洋と日本における保育と幼児教育の歴史的な流れを理解し説明ができる。<br>②保育と幼児教育に関する基本事項を理解し説明できる。<br>③各種情報メディアの活用法について学び実践ができる。<br>④これからの社会に対応できるような保育と幼児教育のあり方について考え発表することができる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士・小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | なし |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 黒米聖 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認可保育園での園長を8年間務めた経験から、教育方法や教育技術、教育目標などについて教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| 2 | 教育方法・技術に関する<br>諸概念の理解 | 子どもの学びと関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて学ぶ |
| 3 | 教育方法の理論と歴史 | 「環境指導法」を通して幼児教育の歴史と意義について学ぶ |
| 4 | 教授組織と学習組織の諸形態 | 「造形」を例にして幼児教育を支える教師の役割や発達に即した集団での学びの意義について学ぶ |
| 5 | 授業における教師の役割と指導技術① | 「身体表現」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 6 | 授業における教師の役割と指導技術② | 「音楽」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | これまでのまとめ | まとめ |
| 8 | 授業における教師の役割と指導技術③ | 「言葉」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 9 | 授業における教師の役割と指導技術④ | 「算数」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 10 | 授業における教師の役割と指導技術⑤ | 「理科」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 11 | 授業の設計・実施・評価 | 「総合学習」から授業の目標づくりや学習指導案の作成について理解を深める |
| 12 | 学校におけるICT環境 | 高度情報化社会、コンピュータの特性と学校での活用について学ぶ |
| 13 | これまでのまとめ | まとめ |
| 14 | 授業実践能力の改善と向上 | 「外国にルーツを持つ子ども」を例としてICTの活用法について学ぶ |
| 15 | 障害のある子どもへの理解 | 発達に何らかの障害がある子どもに対する対応の仕方を学ぶ |
| 16 | 虐待された子どもに対する対応 | 児童虐待について理解を深め、子どもに対する支援教育の方法を学ぶ |
| 17 | 教育における評価 | 指導計画の立て方とその評価方法について学ぶ |
| 18 | 「教育の方法と技術」の課題とまとめ | 全体を振り返りながら「教育の方法のと技術」の今後の課題について考える |
| 19 | これまでのまとめ | 総復習 |
| 20 | 教育方法・技術に関する諸概念の理解、教育方法の理論と歴史 | 子どもの学びと関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて学ぶ<br>「環境指導法」を通して幼児教育の歴史と意義について学ぶ |
| 21 | 教授組織と学習組織の諸形態 | 「造形」を例にして幼児教育を支える教師の役割や発達に即した集団での学びの意義について学ぶ |
| 22 | 授業における教師の役割と指導技術 | 「身体表現」「音楽」「言葉」「算数」「理科」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 23 | 授業の設計・実施・評価 | 「総合学習」から授業の目標づくりや学習指導案の作成について理解を深める |
| 24 | これまでのまとめ | まとめ |
| 25 | 学校におけるICT環境 | 高度情報化社会、コンピュータの特性と学校での活用について学ぶ |
| 26 | 授業実践能力の改善と向上 | 「外国にルーツを持つ子ども」を例としてICT活用法について学ぶ |
| 27 | 障害のある子どもへの理解 | 発達に何らかの障害がある子どもに対する対応の仕方を学ぶ |
| 28 | 虐待された子どもに対する対応 | 児童虐待について理解を深め、子どもに対する支援教育の方法を学ぶ |
| 29 | 教育における評価 | 指導計画の立て方とその評価方法について学ぶ |
| 30 | 年間総復習 | 総復習 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 音楽表現Ⅲ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 音楽表現Ⅲ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | 幼稚園教諭・保育士養成課程子どものための音楽表現技術-感性と実践力<br>豊かな保育者へ<br>保育のためのやさしい子どもの歌―弾き歌い・合奏・連弾・合唱 | | 出版社 | 萌文書林<br>ミネルヴァ書房 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | ・音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基礎的知識と技術を身に付ける。<br>・子どもの経験・実態に応じた、音楽表現と関連付ける遊びの展開を習得する。 | | |
| 到達目標 | 保育者として必要な音楽技術や楽典の知識を習得し、それを基に演奏(表現)ができる。<br>音楽教育のメソッドを理解し、子どもの音楽遊びの展開を習得する。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 保育士 | | |
| 関連科目 | 音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | 唯野敦子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 声楽家、児童合唱指導、小学校でのオペラ講座講師の経験から、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基礎的知識と技術を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>音楽の基礎知識の復習 | 授業ガイダンス・音名・音程の復習 |
| 2 | 音楽の基礎知識① | 音階と調性 |
| 3 | 音楽の基礎知識② | 音階と調性・ルート音による伴奏 |
| 4 | 和音とコードネーム① | 三和音（長三和音・短三和音）の構成・三和音のコードネームの表記法など |
| 5 | 和音とコードネーム② | 音階上にできる三和音、和音記号、コードネーム・主要三和音と和音機能、カデンツなど |
| 6 | 和音とコードネーム③ | 副三和音・四和音、属七の和音など |
| 7 | 和音とコードネーム④ | 和音の転回形など |
| 8 | まとめ | コード理論のまとめ |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 子どもと楽しむ打楽器① | 楽器の特徴と奏法① |
| 10 | 子どもと楽しむ打楽器② | 楽器の特徴と奏法② |
| 11 | コード伴奏法① | コード伴奏法の実践～コード付け～ |
| 12 | コード伴奏法② | コード伴奏法の実践～転回形～など |
| 13 | コード伴奏法③ | コード伴奏法の実践～伴奏付けにおいて楽曲にふさわしい伴奏形についての理解～など |
| 14 | まとめ | コード伴奏法のまとめ |
| 15 | 移調・移旋・転調① | 子どもたちが歌いやすい高さに変える方法について・移調、移旋、転調について学ぶ |
| 16 | 移調・移旋・転調② | 移調、移旋、転調について学ぶ・コード伴奏法の実践など |
| 17 | 移調・移旋・転調③ | 移調、移旋、転調について学ぶ・コード伴奏法の実践・移調奏のまとめ |
| 18 | 保育現場におけるピアノの役割と表現① | 歌唱の伴奏としての役割・想像を促し、子どもの表現を導く楽器表現として・絵本や劇中の効果音として |
| 19 | 保育現場におけるピアノの役割と表現② | 合奏の１パートや伴奏として・言葉の環境づくりとして・行事での奏楽やBGMとして・歌（メロディー）の創作 |
| 20 | 保育現場におけるピアノの役割と表現③ | まとめ |
| 21 | 楽器遊びを中心にした表現活動① | サウンドマップ・サウンドスケープ・いろいろな楽器やリズムに親しむ |
| 22 | 楽器遊びを中心にした表現活動② | 日常の楽器遊びからアンサンブルへ・ボイスアンサンブル・リズムアンサンブル |
| 23 | 楽器遊びを中心にした表現活動 | まとめ |
| 24 | 4・5歳児を対象とした音楽遊びの計画 | 4・5歳児を対象とした音楽遊びの指導計画実例・視覚的教材を用いた活動 |
| 25 | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画① | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例～フレーズを用いて～ |
| 26 | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画② | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例～拍子を感じて～ |
| 27 | 指導実践 | 各回内容の実践 |
| 28 | 指導実践 | 各回内容の実践 |
| 29 | 音楽遊びの模擬保育実践 | 模擬保育の指導計画立案と発表 |
| 30 | 音楽遊びの模擬保育実践とまとめ | 模擬保育の指導計画立案と発表一年の総まとめと振り返り |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 音楽表現Ⅳ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 音楽表現Ⅳ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | 保育のためのやさしい子どもの歌―弾き歌い・合奏・連弾・合唱 | | 出版社 | ミネルヴァ書房 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | 子どものうたのレパートリーを広く学習し、保育現場に相応しい演奏技術を身に付ける。 | | |
| 到達目標 | 子どものうたの伴奏（弾き歌い）の技術を身に付け、保育現場に相応しい演奏表現ができるようになる。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 保育士 | | |
| 関連科目 | 音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | オオタケ仁美/児玉千佳/田中拓未 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | オオタケ/幼稚園、保育園にてリトミック講師として勤務、ピアノ指導歴30年<br>児玉/チェロ奏者、保育士国家試験講座講師の経験<br>田中/ピアノ指導歴9年<br>以上の経験から保育現場に相応しい演奏技術を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>1年次の復習 | 授業の流れ、到達目標について<br>1年次既習曲の確認 |
| 2 | 生活のうた（1） | 生活のうたの弾き歌い練習 |
| 3 | 生活のうた（2） | 生活のうたの弾き歌い練習 |
| 4 | 生活のうた（3） | 生活のうたの弾き歌い練習 |
| 5 | 生活のうた（4） | 生活のうたの弾き歌い練習 |
| 6 | 成果発表① | 「生活のうた」から演奏発表 |
| 7 | 季節のうた：夏（1） | 夏の季節の弾き歌い練習 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 季節のうた：夏（2） | 夏の季節の弾き歌い練習 |
| 9 | 季節のうた：夏（3） | 夏の季節の弾き歌い練習 |
| 10 | 季節のうた：夏（4） | 夏の季節の弾き歌い練習 |
| 11 | 季節のうた：秋（1） | 秋の季節の弾き歌い練習 |
| 12 | 季節のうた：秋（2） | 秋の季節の弾き歌い練習 |
| 13 | 季節のうた：秋（3） | 秋の季節の弾き歌い練習 |
| 14 | 季節のうた：秋（4） | 秋の季節の弾き歌い練習 |
| 15 | 成果発表② | 「季節のうた：夏・秋」から演奏発表 |
| 16 | 季節のうた：冬（1） | 冬の季節の弾き歌い練習 |
| 17 | 季節のうた：冬（2） | 冬の季節の弾き歌い練習 |
| 18 | 季節のうた：冬（3） | 冬の季節の弾き歌い練習 |
| 19 | 季節のうた：冬（4） | 冬の季節の弾き歌い練習 |
| 20 | 季節のうた：春（1） | 春の季節の弾き歌い練習 |
| 21 | 季節のうた：春（2） | 春の季節の弾き歌い練習 |
| 22 | 季節のうた：春（3） | 春の季節の弾き歌い練習 |
| 23 | 季節のうた：春（4） | 春の季節の弾き歌い練習 |
| 24 | 成果発表③ | 「季節のうた：冬・春」から演奏発表 |
| 25 | その他の子どものうた（1） | その他の子どものうたの弾き歌い練習 |
| 26 | その他の子どものうた（2） | その他の子どものうたの弾き歌い練習 |
| 27 | その他の子どものうた（3） | その他の子どものうたの弾き歌い練習 |
| 28 | その他の子どものうた（4） | その他の子どものうたの弾き歌い練習 |
| 29 | 成果発表④ | 「その他の子どものうた」から演奏発表 |
| 30 | 総まとめ | 演奏発表一年間の振り返りと次年度に向けて |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 造形表現Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 造形表現Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | 幼児造形の基礎 | | 出版社 | 萌文書林 | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | ①豊かな造形表現が育まれるプロセスを知る。<br>②豊かな造形表現が育まれる指導法を知る。<br>③子ども惹をきつける保育教材の作成法を身につける。<br>④保育者として必要な自身の感性を磨く。 |
| 到達目標 | ①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえ、時期を追た子どもたちの活動内容が理解できる。<br>②幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた指導計画を立てることができる。<br>③造形技法、道具、素材を使って、保育教材が作成できる。<br>④いろいろなものの美しさを感じとることができる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 造形表現Ⅰ・造形表現Ⅲ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 道源綾香 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 東京都内の幼児向け造形教室で講師として勤務(２年間)。主に３～５歳児と絵画や工作、マナー等を援助・指導する。以上の経験をもとに、豊かな造形表現が育まれるプロセス・指導法を教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>幼児造形とは | 授業「造形表現Ⅱ」の概要説明、及び年間計画提示、幼児の造形教育のねらいの理解 |
| 2 | 幼児の造形教育の方法① | 素材からの造形表現・描画材の種類Ⅰ（絵の具・クレパス）（造形表現Ⅰの復習）と技法指導 |
| 3 | 幼児の造形教育の方法② | 素材からの造形表現・描画材の種類Ⅱ（マーカー・ペン・色鉛筆他）（造形表現Ⅰの復習）と技法指導 |
| 4 | 幼児の造形教育の方法③ | 紙とハサミの指導法実践 |
| 5 | 幼児の造形教育の方法④ | 子どもの表現を生み出す人的な環境としての保育者の役割の理解 |
| 6 | 幼児の造形教育の方法⑤ | 子どもの主体性を生かす保育の理解 |
| 7 | 幼児の造形教育の方法⑥ | 模擬保育を行う意義の理解 |
| 8 | 幼児の造形教育の方法⑦ | 造形に関する模擬保育の実践 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 幼児造形教育への実践① | 造形に関する模擬保育の実践 |
| 10 | 幼児造形教育への実践② | 保育教材の意義の理解 |
| 11 | 幼児造形教育への実践③ | 保育教材の作成 |
| 12 | 幼児造形教育への実践④ | 保育教材の作成 |
| 13 | 幼児造形教育への実践⑤ | 保育教材の作成 |
| 14 | 幼児造形教育への実践⑥ | 保育教材の作成 |
| 15 | 幼児造形教育への実践⑦ | 保育教材の作成 |
| 16 | 幼児造形教育への実践⑧ | 保育教材を使用した発表 |
| 17 | 幼児造形教育への実践⑨ | 保育教材を使用した発表 |
| 18 | 幼児の発達と造形表現① | 描画における発達段階・子どもの絵の意味の理解 |
| 19 | 幼児の発達と造形表現② | 身体表現・音楽表現と造形表現の理解 |
| 20 | 幼児の発達と造形表現③ | 心を支える美術の力、障害児と造形表現の理解 |
| 21 | 幼児造形教育への実践⑩ | 行事における造形活動の在り方や方法の理解 |
| 22 | 幼児造形教育への実践⑪ | 行事における造形活動の在り方や方法の理解 |
| 23 | 幼児造形教育への実践⑫ | 行事における造形活動の在り方や方法の理解 |
| 24 | 幼児造形教育への実践⑬ | 行事における造形活動実践・発表 |
| 25 | 幼児造形教育の広がり① | 環境（社会）と連携した幼児造形教育の理解 |
| 26 | 幼児造形教育の広がり② | 環境（社会）と連携した幼児造形教育の理解 |
| 27 | 幼児造形教育の広がり③ | 環境（社会）と連携した幼児造形教育の理解 |
| 28 | 総合制作① | 季節や行事、文化を反映した自由制作 |
| 29 | 総合制作② | 季節や行事、文化を反映した自由制作 |
| 30 | まとめ<br>振り返り | 一年間の振り返り・まとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 身体表現Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 身体表現Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 指導実践を通して運動遊びの指導力を身につける。 |
| 到達目標 | 幼児期に必要な運動遊びを考案し、指導できるようになる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 身体表現Ⅰ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 増井紬 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 幼児体育のインストラクター経験をもとに、幼児期に必要な運動遊びを考察・指導できるスキルを教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ、到達目標について理解する |
| 2 | 運動遊びの指導考案 | 運動遊びの指導実践に向けた準備 |
| 3 | 運動遊びの指導実践① | 運動遊びの指導実践 |
| 4 | 運動遊びの指導実践② | 運動遊びの指導実践 |
| 5 | 指導実践の振り返り | 指導実践の振り返りと指導法の確認 |
| 6 | 考案編/音楽体操 | 音楽体操の振付を考案する |
| 7 | 準備編/音楽体操 | 考案した音楽体操を実践する |
| 8 | 指導編/音楽体操 | 考案した音楽体操の指導実践 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | マット運動 | マット運動の指導と補助 |
| 10 | 跳び箱運動 | 跳び箱運動の指導と補助 |
| 11 | 鉄棒運動 | 鉄棒運動の指導と補助 |
| 12 | 考案編/サーキット遊び | サーキット遊び、サーキットトレーニングについて学ぶ |
| 13 | 準備編/サーキット遊び | サーキット遊び、サーキットトレーニングの指導準備 |
| 14 | 指導編/サーキット遊び | サーキット遊び、サーキットトレーニングの指導実践 |
| 15 | 前期のまとめ | 前期の振り返りとまとめ |
| 16 | 後期オリエンテーション | 後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認 |
| 17 | 個人での指導実践準備 | 個人指導の実践準備 |
| 18 | 個人での指導実践① | 個人指導の実践 |
| 19 | 個人での指導実践② | 個人指導の実践 |
| 20 | 個人での指導実践③ | 個人指導の実践 |
| 21 | 個人での指導実践④ | 個人指導の実践 |
| 22 | 個人での指導実践⑤ | 個人指導の実践 |
| 23 | 個人での指導実践⑥ | 個人指導の実践 |
| 24 | 個人での指導実践⑦ | 個人指導の実践 |
| 25 | 個人での指導実践⑧ | 個人指導の実践 |
| 26 | 個人での指導実践⑨ | 個人指導の実践 |
| 27 | 個人での指導実践⑩ | 個人指導の実践 |
| 28 | 個人での指導実践⑪ | 個人指導の実践 |
| 29 | 個人での指導実践⑫ | 個人指導の実践 |
| 30 | 総まとめ | 授業の振り返りとまとめ |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | こどものうたⅡ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | こどものうたⅡ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | こどものうた200<br>続こどものうた200 | | 出版社 | チャイルド本社 | |

| 科目の基礎情報② | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | 「こどものうたⅠ」で学んだ歌唱技術を活かし更に音楽的表現力を高めるとともに、保育者として音楽の魅力を伝えるための知識と指導力を身につける。 | | |
| 到達目標 | 子どもの年齢ごとの声域や言語、歌唱の発達について特徴を述べることができ、適切な指導ができる。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | 保育士 | | |
| 関連科目 | こどものうたⅠ | | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 | | |
| 担当教員 | 吉村有希 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 声楽家、音楽教室講師の経験をもとに、保育者として音楽の魅力を伝えるための知識と指導力を身につけられるような授業を展開する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ、到達目標、評価、子どもの歌唱 |
| 2 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 3 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 4 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 5 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 6 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 7 | 成果発表① | 歌唱発表 |
| 8 | 成果発表① | 歌唱発表 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 10 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 11 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 12 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 13 | 成果発表② | 低年齢児（3歳）の模擬指導立案 |
| 14 | 成果発表② | 低年齢児（3歳）の模擬指導発表 |
| 15 | 成果発表② | 低年齢児（3歳）の模擬指導発表 |
| 16 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 17 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 18 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 19 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 20 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 21 | 成果発表③ | 歌唱発表 |
| 22 | 成果発表③ | 歌唱発表 |
| 23 | あそびうた | あそびうたの実践 |
| 24 | あそびうた | あそびうたの実践 |
| 25 | あそびうた | あそびうたの実践 |
| 26 | いろいろな歌の形態に親しむ | 歌唱練習 |
| 27 | いろいろな歌の形態に親しむ | 歌唱練習 |
| 28 | 成果発表④ | 4・5歳児の模擬指導立案 |
| 29 | 成果発表④ | 4・5歳児の模擬指導発表 |
| 30 | 成果発表④ | 4・5歳児の模擬指導発表と一年の振り返り |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 実習 | 科目名 | 保育実習Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育実習Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 90 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 保育所での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。 |
| 到達目標 | ①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。<br>②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。<br>③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について相互的に理解する。<br>④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。<br>⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。<br>⑥実習における自己の課題を明確化できる。 |
| 評価基準 | 実習評価(40%)、日誌・指導案(60%)を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導内容を総合的に評価する。 |
| 認定条件 | 出席が90単位時間以上ある者。成績評価が３以上の者。<br>保育実習指導Ⅱの単位を取得している者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅱ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 長山千愛/吉村英恵 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 長山/幼保連携型認定こども園の幼稚園にて、幼稚園教諭として6年間勤務<br>吉村/私立幼稚園にて、幼稚園教諭として８年間勤務<br>以上の経験から、保育所での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を身につけられるよう教授する。 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 実習 | 科目名 | 保育実習Ⅲ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育実習Ⅲ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 2 | 90 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 児童福祉施設での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援・保護者支援するために必要とされる能力を養う。 |
| 到達目標 | ①既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。<br>②家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。<br>③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。<br>④実習における自己の課題を理解する。 |
| 評価基準 | 実習評価(40%)、日誌・指導案(60%)を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導内容を総合的に評価する。 |
| 認定条件 | 出席が90単位時間以上ある者。成績評価が３以上の者。<br>保育実習指導Ⅲの単位を取得している者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅲ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 長山千愛/吉村英恵 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 長山/幼保連携型認定こども園の幼稚園にて、幼稚園教諭として6年間勤務<br>吉村/私立幼稚園にて、幼稚園教諭として８年間勤務<br>以上の経験から、児童福祉施設での保育を実践し、保育士としての必要な資質・能力・技術を身につけられるよう教授する。 |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育実習指導Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 発達年齢に合わせた、より具体的な子どもとの関わりを学ぶ。 |
| 到達目標 | ①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。<br>②実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。<br>③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の質の改善について、実践や事例を通して理解する。<br>④保育士の専門性と職業倫理について理解する。<br>⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。<br>保育実習Ⅱの単位が取得できている者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習指導Ⅰ（施設）・保育実習指導Ⅲ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 長山千愛/吉村英恵 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 長山/幼保連携型認定こども園の幼稚園にて、幼稚園教諭として6年間勤務<br>吉村/私立幼稚園にて、幼稚園教諭として８年間勤務<br>以上の経験から、発達年齢に合わせたより具体的な子どもとの関わりを教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス | 授業ガイダンス |
| 2 | 保育実習の意義・目的 | 保育実習に寄る総合的な学び |
| 3 | 実習日誌 | 実習日誌演習 |
| 4 | 実習日誌 | 実習日誌演習 |
| 5 | 実習日誌 | 実習日誌演習 |
| 6 | 実習日誌 | エピソード記録演習 |
| 7 | 実習日誌 | エピソード記録演習 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 3歳児の発達特徴 | 3歳児の発達特徴について理解する |
| 9 | 3歳児の指導案立案 | 3歳児の発達に沿った指導案作成 |
| 10 | 4歳児の発達特徴 | 4歳児の発達特徴について理解する |
| 11 | 4歳児の指導案立案 | 4歳児の発達に沿った指導案作成 |
| 12 | 5歳児の発達特徴 | 5歳児の発達特徴について理解する |
| 13 | 5歳児の指導案立案 | 5歳児の発達に沿った指導案作成 |
| 14 | 0歳児の発達特徴 | 0歳児の発達特徴について理解する |
| 15 | 0歳児の指導案立案 | 0歳児の発達に沿った指導案作成 |
| 16 | 1歳児の発達特徴 | 1歳児の発達特徴について理解する |
| 17 | 1歳児の指導案立案 | 1歳児の発達に沿った指導案作成 |
| 18 | 2歳児の発達特徴 | 2歳児の発達特徴について理解する |
| 19 | 2歳児の指導案立案 | 2歳児の発達に沿った指導案作成 |
| 20 | 実習直前指導 | プライバシーの保護と守秘義務 |
| 21 | 様々な保育内容① | 実践力をつけるための様々な保育を知る |
| 22 | 指導案作成① | 実践力をつけるための様々な保育の指導案作成 |
| 23 | 様々な保育内容② | 実践力をつけるための様々な保育を知る |
| 24 | 指導案作成② | 実践力をつけるための様々な保育の指導案作成 |
| 25 | 保育実習の振り返り | 実習の総括、自己評価 |
| 26 | 保育実習の振り返り | 実習の総括、自己評価 |
| 27 | 保育者としての職業倫理 | 子どもの権利条約を元に保育を考える |
| 28 | 保育者としての職業倫理 | 子どもの権利条約を元に保育を考える |
| 29 | 保育者の専門性 | 保育者に求められる専門性と保育の質の向上に向けて |
| 30 | 保育者の専門性 | 保育者に求められる専門性と保育の質の向上に向けて |

# シラバス

| 科目の基礎情報① | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 保育実習指導Ⅲ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育実習指導Ⅲ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | 保育科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

| 科目の基礎情報② | |
|---|---|
| 授業のねらい | 各種保育実習に向けて、保育士としての基本的な態度・知識・技術を習得する |
| 到達目標 | ①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。<br>②実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。<br>③保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。<br>④保育士の専門性と職業倫理について理解する。<br>⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。<br>保育実習Ⅲの単位が取得できている者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 保育実習指導Ⅰ（保育所）・保育実習指導Ⅰ（施設）・保育実習指導Ⅱ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |
| 担当教員 | 長山千愛/吉村英恵 |
| 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 長山/幼保連携型認定こども園の幼稚園にて、幼稚園教諭として6年間勤務<br>吉村/私立幼稚園にて、幼稚園教諭として８年間勤務<br>以上の経験から、各種保育実習に向けて、保育士としての基本的な態度・知識・技術を教授する。 |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 実習の概要 | 保育実習に向けての準備する内容を理解する |
| 2 | 実習施設調査 | 自分の実習先について調べ、施設種別と実習先の特徴について整理する |
| 3 | 保育の全体計画に基づく具体的な計画① | 保育実習を通しての課題及び各実習日の実習課題について検討する |
| 4 | 保育の全体計画に基づく具体的な計画② | 実習期間における実習計画書を作成する |
| 5 | 子どもの状態に応じた適切なかかわり① | 被虐待児の関わり方について検討する |
| 6 | 子どもの状態に応じた適切なかかわり② | 障害児の関わり方について検討する |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 保育の知識・技術を生かした保育実践① | 被虐待児への保育実践について検討する |
| 8 | 保育の知識・技術を生かした保育実践② | 障害児への保育実践について検討する |
| 9 | 保育の自己評価 | 保育における子どもの評価について深める |
| 10 | 保育の改善 | 子どもの評価に基づき、改善方法について検討する |
| 11 | 保育士の専門性① | 通所施設における保育士の専門性について検討する |
| 12 | 保育士の専門性② | 入所施設における保育士の専門性について検討する |
| 13 | 自己紹介① | 自己紹介案を考える |
| 14 | 自己紹介② | 自己紹介を他者に見せて振り返りをする |
| 15 | 実践準備① | レクリエーションを考える |
| 16 | 実践準備② | レクリエーションを実践する① |
| 17 | 実践準備③ | レクリエーションを実践する② |
| 18 | 実践準備④ | 廃材おもちゃを考える |
| 19 | 実践準備⑤ | 廃材おもちゃを作る① |
| 20 | 実践準備⑥ | 廃材おもちゃを作る② |
| 21 | 実践準備⑦ | 廃材おもちゃを作る③ |
| 22 | 実習における評価 | 実習における評価の自己覚知を図る |
| 23 | 実習報告書の作成① | 実習計画書に基づき、実習報告書を作成する |
| 24 | 実習報告書の作成② | 実習計画書に基づき、実習報告書を作成する |
| 25 | 発表① | 保育実習を通しての学びを他者と共有する |
| 26 | 発表② | 保育実習を通しての学びを他者と共有する |
| 27 | 実践準備⑧ | お仕度ボードを作る① |
| 28 | 実践準備⑨ | お仕度ボードを作る② |
| 29 | 実習の総括と自己評価 | 保育実習を通しての総括と自己評価を行う |
| 30 | 課題の明確化 | 実習を通して学んだことを振り返る |